

# 浜松市障がい者自立支援協議会 西・南エリア連絡会

## 第2回全体会 会議録

- 1 開催日時 令和5年10月20日 午後2時00分から午後4時7分
- 2 開催場所 南区役所 3階 大会議室 (Web会議併用)
- 3 出席状況 ※敬称略

構成員	相談支援事業所まで	鈴木 宏幸(会場)
	あさぎり	仲安 寛元(会場)
	四季の郷	早戸 真規(会場)
	好生会三方原病院	平野慎一郎(会場)
	浜松自立支援センター (障害者相談員)	水島 秀俊 (Web)
	浜松市浜松手をつなぐ育成会 (障害者相談員)	伊藤 幸枝 (会場)
	ワークショップくるみ	袴田 みや(会場)
	可美地区社会福祉協議会	太田 智子 (Web)

事務局	浜松市西・南障がい者相談支援センター	後藤 翔一郎(会場)
		古澤 則仁 (会場)
		長谷 瞳 (会場)
		谷内 俊介 (Web)
		小澤 理沙 (会場)
		大場 拓弥 (会場)
	浜松市西区社会福祉課	杉森 泉 (会場)
	浜松市南区社会福祉課	内藤 淳 (会場)

オブザーバー	浜松市障がい者基幹相談支援センター	大軒 優一 (会場)
--------	-------------------	------------

<欠席者>

構成員	新津地区民生・児童委員協議会	澤根 緑
	浜松市教育委員会指導課 (SSW)	長坂 聖子

- 4 傍聴者 11名

- 5 議 事 内 容
- 1 【報告事項】 浜松市障がい者自立支援協議会報告
  - 2 【報告事項】 令和5年度西・南エリア連絡会活動報告
  - 3 【協議事項】 日中サービス支援型共同生活援助意見交換会
  - 4 【協議事項】 地域体制強化共同支援会議
  - 5 【協議事項】 当事者との意見交換
  - 6 【協議事項】 その他

6 会議録作成者 浜松市南区社会福祉課障害福祉グループ 内藤 淳

7 記録の方法 発言者の要点記録  
録音の有無 有・

## 8 会 議 記 録

1	開 会	司会 浜松市西・南障がい者相談支援センター 長谷 瞳
2	議 事	<p>(1) 【報告事項】 浜松市障がい者自立支援協議会報告</p> <p>&lt;主な報告内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・10月23日、市協議会全体会が開催される。障害者計画（案）とエリア活動の報告を予定。傍聴の申込は、まだ間に合う。</li><li>・9月28日、市協議会企画会議が開催された。その中で、12月2日にイオン志都呂での「すまいるフェスタ」、12月20日に強度行動障害の研修が開催されるとの説明があった。</li><li>・強度行動障害の研修内容は、北エリアの取り組みの紹介、事業所向けアンケートの結果報告、実践にかかる講義、グループワークを予定。12月上旬に案内を送付する予定。</li></ul> <p>※質疑応答無し</p> <p>(2) 【報告事項】 令和5年度西・南エリア連絡会活動報告</p> <p>資料に基づき説明</p> <p>&lt;質疑応答&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・こども部会の活動報告として、「エトセトラ休刊」とあるが、何か理由があるのか。<ul style="list-style-type: none"><li>→ 情報が得にくい方に対し、いかに情報を伝えるかを目的とし、これまで年1回発行する中で、相談先や、障害をお持ちの方でも利用可能な施設について情報を提供してきた。</li><li>→ 西区連絡会当時から取り組んできた活動であり、当エリアの活動</li></ul></li></ul>

として継続していた。

→ 配布先は、特別支援学校や、放課後等デイサービス等の事業所。学校からは、いい取り組みとの反響も寄せられている。

→ 発刊にあたり、相応の時間と労力を要することから、実務面での大変さはある。今年度は、計画段階ですでに日数が足らなかったことから休刊とし、研修に注力することとした。

### (3) 【協議事項】 日中サービス支援型共同生活援助意見交換会

#### <主な報告内容>

- ・目的は、「地域の中でどのような支援ができるかを共に考え、お互いにより良い支援を目指す」こと。
- ・各グループホームにて見学会を実施した後、9月25日に意見交換会を実施した。
- ・12月15日までに、市協議会にフィードバックする。
- ・ソーシャルインクルーホーム浜松雄踏町には、権利擁護の視点を持ち、支援について第三者の意見を聞く機会を持てると良いといったことを伝えていく。
- ・ソーシャルインクルーホーム浜松馬郡では、利用者同士の話し合いの場を設け、意思表示の機会としている。良い取り組みであり、今後も継続してできるといい。個別支援での難しさについては、職員間の協議だけでなく、外部の機関が入っての事例検討も効果的である。
- ・あやめはうす浜松南は、地域との連携のためにも、エリア連絡会活動に積極的に参加し、構成員と協同することが大切。本人の特性やストレスへの理解に基づいた、個の支援が必要。
- ・ソーシャルインクルーホームは、会社として地域生活拠点の手続きを進めている。1つの成果として評価できる。
- ・グループホームでの個別支援において、本人の意思を尊重することと支援のバランスを保つことは容易でなく、難しさがある。
- ・いずれのグループホームも、個別支援における困り感はあるものの、支援としてはグループホーム内で完結している様子。そのため、計画相談を交えての事例検討や、エリア連絡会での事例検討といった視点が大切。

#### <構成員からの主な意見>

- ・権利擁護の視点から、当事者の生の声を拾う取り組みが必要。当事者と職員との間で、認識に不一致があるかもしれない。入所施設はその点でノウハウがあり、グループホームにも協力できるはず。
- ・利用者にとって、グループホームで何が満たされ、何が足りないかを知ることは大切。重度化や高齢化といった視点も加えたい。
- ・グループホーム側が、聞きたいことをエリア連絡会に投げかけるといった、逆方向のベクトルも大切に思う。
- ・方法問わず、互いに聞きたいことをざっくばらんに話せるといい。

- ・（グループホームの母体となる）法人が広範囲に展開している場合、運営における何か仕組みはあるのか。同法人であっても、個々のグループホームごとに対応しているような印象も受ける。
- ・個別支援計画は支援の元になるものといえるが、それをグループホーム内でどれだけ共有できているか、現状を知りたい。
- ・エリア連絡会として、一方的な評価とならぬよう配慮はしているが、体制の強化や権利擁護といったことについては、厳しい意見が出ることも致し方ないように思われる。

#### （４）【協議事項】地域体制強化共同支援会議

##### <主な報告内容>

- ・就労定着支援については、市協議会企画会議にて実態調査を実施するよう助言をいただいた。実態調査かつ、モデルケースを設け、サービス（就労定着支援）終了後の支援イメージを共有できるよう取り組んでいく。
- ・高次脳機能障害の方については、両親が高齢で本人への介護が徐々に難しくなっている。現在利用中のヘルパー事業所は1つのみであるため、利用する事業所を複数に拡充していく必要がある。
- ・（令和6年度に就学を予定している）医療的ケア児の通学支援は、手段が確立できていない。学校での就学前面接終了後、学校関係者を交えて第2回共同支援会議を1月に実施する予定。送迎協力の調整、日中一時支援の利用等が検討課題。

※質疑応答無し

#### （５）【協議事項】当事者との意見交換

##### <主な報告内容>

- ・当事者の方の地域づくりへの参加機会を増やすと共に、活動体制の構築を目指す。
- ・1月18日に、意見交換会を実施する。グループに分かれて意見交換をする予定。テーマ設定の有無や、グループの分け方については検討中。
- ・令和5年度は、西・南エリア連絡で実施をし、そのノウハウを携えて令和6年度の西、南の各エリア活動につなげていく。

##### <構成員からの主な意見>

- ・テーマ設定として、防災も大切だが、暮らしの中の困りごとや、「こうあればいい」といった意見も大切。グループ分けは少人数かつ地域ごとにすれば、いろいろな立場の方からの意見が聞け、気づきになる。日時が合わず出席できない方のためにも、2回目以降も開催願いたい。
- ・令和4年よりエリア連絡会で取り組んできた防災ワーキングが終了し、その継続の意味での意見交換かと認識していたが、オープンテーマでも

- いいと思う。障害別だと顔なじみのメンバーに偏る可能性があるため、それよりもテーマ別に分けて、参加者同士のつながりが広がるといい。
- ・その時々で、様々な方法が考えられると思う。グループごとに異なるテーマを設定する方法もある。
  - ・センターで目的を設定し、コアメンバーでの集まりよりも、意見交換の機会を増やし、そこで出た意見をセンターがカテゴリ化して集約する。
  - ・いい取り組みだと思う。フリートークにするとまとまらない可能性が出てくるが、そこからは重要な意見も出ると思う。実施するにあたり、工夫は必要。

## (6) 【協議事項】その他

### ① 『居場所・進路先』の配布

- ・不登校やひきこもりの子の行き先等をまとめた冊子をセンターが作成し、このたび完成した。全構成員にメールで周知した上で、必要な方はセンターに直接出向いていただき、説明を受けた上での受け取りとしたい。

#### <質疑応答>

- ・データでの配布はできないか。
  - より広く提供するというより、デリケートな情報の取り扱いとなるため、データでの配布は想定していない。実際の情報は日々更新されるが、冊子は即応できず、情報を真に受けた方と学校との齟齬が心配される。また、データ自体が重いこともある。
- ・障害を持つ子の親が、センターまで取りに行くことはハードルが高い。
- ・注釈をつけて配布すればいいのではないか。届けるべき人に届けることが大切。
  - きっかけは、支援者側の資料として作成することだった。広くデータを提供するという想定は無かった。
  - 当初の目的があるのなら、まずはそれで実施すべきだと思う。データをより広く提供することについては、また別の話し合いとなる。本人だけでなく家族にとっても大切な情報であることは分かるが、ホームページ掲載についても条件はあるはずで、確認や調整を要する（配布方法は、センター案にて承認）。

### ② 当連絡会4年間の振り返り

- ・来年度は、西と南にエリア連絡会が分かれる予定。運営方法はまだ決まっていない。次回、最後の全体会で振り返りを実施するが、現時点での意見を伺いたい。

< 構成員からの主な意見 >

- ・ コロナの対応、（西区と南区が対象圏域となる）規模の大きさは、運営する上で大変だったと思われる。
  - エリアの圏域が広く、構成員の数も倍となり、かつコロナ禍ということで、センターとしては難しさがあり、地域課題の抽出までは至らなかった。ただ、多様な意見をいただくことができたのは、この圏域だからと思われる。圏域における共通点に気づくこともできた。
- ・ （センターにとって）相談業務と地域づくりでは、単純に時間が足りない。マンパワーが必要。
- ・ 今の圏域は広大なエリアで、大変。活動もそれだけ多かった印象。日中サービス支援型共同生活援助の評価を、西・南エリアは毎年実施していた。（構成員を同じくする会議体でありながら）全体会と意見交換会を別に実施する等、取り組みが丁寧だった。
- ・ かつて、南区連絡会の全体会は報告会といった様相だったが、西・南エリアの全体会では話し合いが重視され、変わったという印象を受けた。こまやか、かつ丁寧な対応だった。日中サービス支援型共同生活援助の見学会では、持ち帰ることができる視点もあり、所属での共有につながった。
- ・ 相談業務だけでなく、連絡会活動によくぞ注力できたと思う。地域のニーズや課題、他の法人の取り組み等を、所属する法人にフィードバックできたことは、ありがたかった。
- ・ 広いエリアで培ったノウハウは、小さな圏域になっても生かされると思う。顔の見える関係が大切。
- ・ 連絡会活動を、地区社協の方々がどこまで理解できるかという疑問はあるが、相談員でもある自分より、広く他の方にも知ってもらえるといい取り組みだった。
- ・ 当事者の意見が、より聞いてもらえるといい。

3 その他

① 市協議会構成員研修会

- ・ 今年度の市協議会構成員研修会を、11月29日14時から、福祉交流センターにて実施する。内容は、エリアの再編と地域支援体制。ぜひ参加いただきたい。

4 閉会

浜松市西・南障がい者相談支援センター 長谷 瞳

以上